



防コミの歩き方

海と山と防コミと

須磨区について

須磨の海沿いには全国的に有名な須磨海水浴場があり、夏場のシーズンだけでなく冬場でも散歩を楽しむ人々が行きかいます。

板宿商店街周辺には古くからの街並みが残っており、隣接する長田の街並みとともににぎわいを見せています。

また、北部には須磨アルプスのふもとに北須磨団地が広がり、多くの住民が居住するベッドタウンが広がっています。

このように自然が豊かな顔をもつ須磨ですがその歴史も古く、源義経の一ノ谷の逆落としに始まり、敦盛塚や須磨寺といった古刹や飛松町、行平町といった歴史を感じる地名等が存在します。

求められる災害対応力

このように海と山と歴史のある須磨には現在21地区の防災福祉コミュニティ（以下、防コミという）が活動しており、それぞれの地区で防コミリーダーを中心に盛んに訓練が計画、実施されています。

将来予想される南海東南海地震による災害対策の他、台風、水害、土砂災害といった、多くの災害の発生が想定され、須磨の防コミにはその災害に対応する力が求められています。

防コミと新しい歴史

災害に対応する若い力を育てる取り組みも盛んで、小学校では「ジュニア防災」として、さまざまな訓練を通じ防災についての知識を学び、安全と安心について考え、地域の人とコミュニケーションを通じ地域とのつながりを深めることで未来の須磨の防災を担う子どもたちが育ってきています。



おわりに

災害に対応するには人々によるさらなるつながりが必要とされ、災害の規模によっては消防の力の及ばないことがあります。そのような場合に地域の力を発揮できるように、須磨では日々それぞれの防コミが訓練をおこなっています。

地域の人、コミュニティとの連携を通じ、これからの須磨の街の安全安心が向上することを祈っています。

（須磨消防署 坂本太郎）